



会津農林事務所農業振興普及部だより

272号（令和2年11月12日発行）

発行 ■会津農林事務所農業振興普及部

住所 ■〒965-8501 福島県会津若松市追手町7番5号

電話 ■農業振興課 0242-29-5303 地域農業推進課 0242-29-5306

経営支援課 0242-29-5307 有機農業担当 0242-29-5317

古川正光・美保子御夫妻（猪苗代町）が 「福島県農業賞」を受賞されました！

令和2年9月9日に、福島市の杉妻会館において、「第61回福島県農業賞表彰式」が開催され、猪苗代町の古川正光・美保子御夫妻が、「農業経営改善部門」を受賞されました。



受賞された古川御夫妻

「福島県農業賞」は、本県農業分野で最も権威ある賞であり、先進的な生産技術に意欲的に取り組み、模範として将来にわたり地域農業の振興を支えると認められる優れた経営体等を表彰しているものです。

古川御夫妻は、猪苗代町内初のトルコギキョウ栽培に取り組み、その後の産地形成に尽力されており、現在では次男夫妻とともに、水稲、トルコギキョウ及びアスパラガス栽培と和牛繁殖の複合経営を展開しています。また、正光氏は県指導農業士として、またJA会津よつばフラワー生産部会の部会長として、栽培講習会等の企画、若手生産者の確保育成などに努めるなど、地域農業の維持発展への貢献が高く評価され、今回の受賞となりました。

GAP認証取得者を紹介します！（FGAP・白井康大さん）

9月30日、会津若松市門田町の白井康大（しらいやすひろ）さんは、食品安全・環境保全・労働安全・工程全般・放射性物質対策などの内容が含まれる県オリジナルGAPの「FGAP」を認証取得しました。

認証取得に向けて白井さんは、農場のルールの策定や農場内で考えられる様々なリスク管理（ドリフトや収穫後の異物混入対策など）を行い、「見えない信頼」の確保に向けて努力しました。

白井さんは「認証取得後も継続的なGAPの実践に努め、作業の効率化や農業経営の改善につなげていきたいです」と今後の抱負を語ってくれました。

農業振興普及部ではGAPの拡大に向けて随時

相談を受け付けておりますので、興味のある方はお問い合わせください。



白井康大さん

少しの油断が命取りになります！農業機械作業の安全対策を見直しましょう！

県オリジナル品種「福、笑い」と「福乃香」について

「福、笑い」は日本中が感動するようなお米を作りたいとの思いで、食味と品質にこだわって福島県農業総合センターで開発されました。



熟期は中生の晩で、コシヒカリと比較し、収量・品質がやや優り、耐倒伏性・いもち病抵抗性

に優ります。また食味は、『粘り』が強く、『柔らかめ』の食感、甘み・香りも強いのが特徴です。

酒米の「福乃香」は現在、会津管内に調査ほを設置し、安定した生産技術を確認するための実証試験を行っております。



頑張る担い手を紹介します！（会津若松市・石田エリ子さん）

平成29年に就農した会津若松市の石田エリ子さんは花き農家として、トルコギキョウ、宿根カスミソウ、ストックをのべ16a栽培しています。

石田さんは以前は会社勤めでしたが、仕事が多忙になって家族と会話する時間が減っていたことや、かねてから農業を営んでいたご両親の高齢化を気にかけるようになったことから、就農を決意しました。

今年度は、所有するほ場の土質や生育ステージに応じた水管理に注意した栽培に努めた結果、昨年度と比べて収量や品質の向上につなげることができました。

石田さんは「新型コロナウイルスの影響によ

り、花の需要が低下している状況ですが、栽培技術の向上を目指してこれからも努力していきたいです。」と抱負を語ってくれました。

農業振興普及部ではこれからも石田さんの活動を支援して参ります。



石田さんとトルコギキョウ

磐梯町環境保全農家の会は、 環境保全型農業に取り組んでいます！

今年度、磐梯町環境保全農家の会（会長：鈴木勇一氏）が環境保全型農業に準じた栽培により、より良い作物生産を行いながら自然環境を守り、消費者の健康に寄与することを目的に設立されました。

5名のメンバーは、乗用型水田除草機を導入して

6月5日から水田除草を行いました。協力して乗用型水田除草機を利用することにより、除草・抑草作業を省力的に行い、有機栽培米等の品質、収量を向上させる予定です。

農業振興普及部は、このような取組を支援することにより会津地域の有機農業を推進して参ります。



乗用型水田除草機による除草



有機栽培水田と磐梯山

アグリふくしま革新技術加速化推進事業について

農業振興普及部では、令和元年度から園芸品目の大規模化、省力化及び安定生産等に貢献する革新技術を活用した現地実証ほを3カ所設置し、地域適応性や生産性、収益性等を検証しています。

各実証品目とねらいは、①アスパラガスにおける露地での無電源ほ場でも利用可能なソーラー自動かん水装置の導入による単収や品質の向上、省力化等の効果、②ぶどうにおける水稲育苗後のハウスを利用し単価の高い大粒種ぶどうの導入による収益性の向上、③宿根カスミソウにおける電照栽培の導入による開花促進と夏秋トルコギキョウを組み合わせた長期安定出荷です。

今後は、指導会や成果発表会を通じて、実証の経過や実績をお知らせして参ります。



ぶどう指導状況



アスパラガス現地検討会



カスミソウ指導状況

鳥獣被害防止対策モデル集落の現地研修会を開催しました！

9月17日に「鳥獣被害防止の総合的な対策を行うモデル集落現地研修会」を会津若松市湊町赤井集落の現地ほ場で開催しました。

赤井集落では、令和元年度から鳥獣被害対策に集落ぐるみで取り組むモデル集落として、集落環境診断や緩衝帯の整備のほか、侵入防止柵の設置な

どに取り組んできました。

本研修会では、集落ぐるみの被害対策を地域へ普及させることを目的として、赤井集落でのこれまでの取り組みや成果について説明しました。また、集落の取組主体の代表からは、集落全体での取り組みは非常に効果があった等の感想がありました。



現地研修会の様子

人・農地プランの実質化に向けた取組みについて

なぜ“今”人・農地プランの実質化なのか？

これまで、地域での徹底した話し合いにより、ほ場整備、機械・施設の導入、地域の共同活動等行って来ましたが、一方で、農業者の高齢化の中、地域農業を担っていく世代が、効率的な農地利用やスマート農業の取組み等農地の集積・集約化を進めて行く上で、まさにプラン策定は、「待ったなし」の状況と言えます。



9/20地区説明会(猪苗代町S集落)

現在、本プランの策定に向け、関係機関・団体と連携を図り、農業者の皆さんへ周知・説明会開催等行っております。

今こそ、将来にわたって、地域の農地を誰が担っていくのか、誰に農地を集積・集約化していくのか、明文化したプランの策定が必要と考えます。是非、実質化されたプランの策定を御検討ください。農業振興普及部も応援します。



9/28農業技術者会議第4回定例会(磐梯町)

新規採用職員を紹介します！

今年度畜産職として会津農林事務所農業振興普及部に配属された野口泰世（のぐちたいせい）です。私は幼い頃から牛と接する機会が多く、将来は畜産関係の仕事に就こうとっていて、県の畜産技師となることができました。

今の目標は、農業者に頼られるような職員になることです。そのためにも、業務の中で一つ一つ学び、少しでも進歩できるよう努力していきたいと思えます。



野口技師

会津農林事務所果樹担当で LINE公式アカウントを 開設しました！

管内の果樹生産者を対象に、病虫害の発生状況等の情報をお届けしています。チャットで質問も出来ます。登録は無料です。

LINEの友だち登録からこのQRコードをスキャンして、友だちに追加してください！



収入保険に加入しよう！

収入保険は、コロナ禍による収入減少も補償する制度です。さらに、今年度は新規加入者向けの補助事業もあります。